

（外国語活動）

外国語の音声に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を養う

ー子どもがいきいきと楽しく取り組む外国語活動を通してー

大阪市立内代小学校 中川久美子 市川眞一 松井淳子 米本明世

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標に『自ら学び、心豊かな、たくましい子どもを育成する』を掲げ、その実現に向けて日々の教育活動を行っている。

こうした中、文部科学省において発表された英語教育改革実施計画では、中学年で活動型の英語学習の導入、さらに高学年においては、現行とは異なる教科型の英語学習が導入される予定である。

この流れに円滑に乗るためには、「英語を通じて音声や基本的な表現に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を養うことが、最も大切であると考えている。

このような新しい英語教育に対応できる校内体制を整える必要があることから、本年度は『外国語の音声に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を養うー子どもがいきいきと楽しく取り組む外国語活動を通してー』を研究主題とし、英語学習の研究を進めることとした。

2. 研究の概要

（1）研究の視点

研究主題に迫るために、視点を3つ設定して研究に取り組んだ。

①英語の音声に慣れ親しむ。【低学年、特別支援学級（ひまわり）】

先に述べた英語学習へ対応するためには、低学年からの英語教育が必要不可欠であると考え、英語の音声に慣れ親しむようにすることを重点とした。そして、英語もコミュニケーションの一つのツールとして捕らえ、自信を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることをねらいとした。

②ICT機器の有効な活用を行う。【中学年】

ICT機器の特長から、英語学習にも効果的な活用が期待できると考えられることから、こうした機器を活用した学習や教材の開発を行った。

③外国語活動へ効果的に応用する。【高学年】

モジュール単位時間で行われる英語活動の積み重ねが、高学年で行う外国語活動へどのように応用できるかを模索した。

また、研修や授業研究等の英語活動への取り組みが、こうした指導力向上につながるかを検証し、さらにC-NETの効果的な指導体制についても考えた。指導者の側面から見ると英語教育の教科化に伴い、指導内容の高度化・指導時間増に対応する指導力を備えることが必要だからである。

（2）研究の内容

①モジュール活動

毎週1回、15分間を使って活動を行った。内容としては、大阪府公立小学校英語学習6カ年プログラムである"DREAM"の活用を中心とした。さらに、低・中学年の英語活動、高学年においては外国語活動の学習内容に関連するようにした。

②英語活動

月1回程度、1単位時間（45分間）の英語活動を取り入れた。そのねらいは指導計画に基づき、歌やチャンツ、ゲームなどを行いながら英語に慣れ親しむこととした。

③授業研究

研究の視点の検証を行う目的で授業研究を行い、その検証は2段階で行った。まず、ペアである一方の学年で視点に基づいた学習指導案を作成し、検討を行った上で授業を実践した。（改善前検証）つぎに、その実践の様子から改善できるところについて討議を重ね、他方の学年の指導内容に反映させた。（改善後検証）

④英語に触れるための取り組み

普段の授業としての英語活動だけではなく、英語に興味・関心を持ち、さらに英語に親しめるようにするためには、どのような取り組みが効果的であるのかを校内外を通して模索した。

3. 研究の成果と課題

（1）研究の成果

- 英語の音声に慣れ親しませるために、チャンツ、歌、ゲームなどを効果的に取り入れることで、児童が楽しんで学ぶことができた。
- 月ごとのテーマにあった歌、絵本を選び、英語活動やモジュール活動の時間以外でも、それらに触れる機会を多く持つことができた。
- C-NETと連携を図ることで、その場で正しい発音を習得させることができた。
- 音声指導にタブレット PCなどの ICT 機器を用いて、視覚的情報を取り入れることで、効果的な学習を展開することができた。
- ペア活動やグループ活動を取り入れ、それぞれの特性を生かして楽しくコミュニケーション活動ができるように工夫してきたため、友だちとの関わりが深まり、教え合ったり助け合ったりする場面が多くなった。

（2）今後の課題

- 学習したことを定着し、使える英語にするためにも、少しずつ内容をステップアップしたものを考え、繰り返し指導していくことが大切である。
- ICT 機器で活用することができる英語学習の教材開発を行い、充実させていく必要がある。
- C-NET の打ち合わせは短時間でも作る必要がある。
- 書く力を高めるためには、書く機会を定期的に設けることが必要である。

